



2019-2020 年度 藤沢ロータリークラブ週報

2019-2020 年度 RI テーマ



第 2780 地区

ガバナー

第 3 グループガバナー補佐

杉岡 芳樹

渡邊 昭

■創立 / 昭和 29 年 6 月 3 日
 ■事務所 / 藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204 TEL : 0466-25-4000 FAX : 0466-26-9292 E-mail : info@fujisawa-rotary.com
 ■例会日 / 毎週水曜日 12:30~13:30
 ■例会場 / 湘南クリスタルホテル TEL : 0466-28-2111

NO. 30 第 3195 例会 2020 年 2 月 26 日 天候 曇り

ロータリーソング「それでこそロータリー」
 「四つのテスト」 下野 多佳子 会員

《ゲスト・ビジターの紹介》

ビジター：野口 恭夫 様 (相模原 RC)

《会長報告》

- ・ウイルスに感染しないために自己防衛が大切です。皆様、気を付けて下さい。
- ・コロナウイルス感染症拡大に伴う、今後に例会運営について、例会後臨時の理事役員会を開催して協議いたします。理事役員の方はご予約下さい。できる限り例会を開催し、ご出席いただき免疫力を上げていただけたらと思います。

《幹事報告》

- ・テーブルの上にガバナーより参りましたコロナウイルスについてのお知らせを配布しております。お目通しください。

《委員会報告》

- ・廣島 クラブ広報・雑誌委員長
ロータリーの友 3 月号が配布されましたのでお目通し下さい。
マイロータリーの登録、まだお済でない方、よろ敷くお願い致します。

《お祝い》

会員誕生日 3 月 2 日 星谷 けい子 会員



出席報告 ()内は計算に用いた会員数

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メイクアップ 会員数	修正出席者数	修正出席率
2月12日	45(44)名	26名	18名	59. 10%	1名	27名	61. 36%
2月日	45(44)名	26名	18名	59. 10%			

《スマイル報告》

藤田 浩二 会長

野口様 ようこそ!!

新堀さん イニシエーションスピーチ楽しみに
しています。

星谷 けい子 会員

お誕生日のお祝い、ありがとうございます。
新堀きよみさん、いつも雑誌ありがとうございます。
内容が濃くて楽しみです。
卓話、楽しみです。

《小話 3分間スピーチ》

星谷 けい子 会員



イメージを変えて、生まれて初めてショートカットにしてみました。近況報告をさせていただきます。
昨年は、江の島五輪音頭を2020東京オリンピックに向けて盛り上げていくこととお話させていただきました。練習を7回、延べ800人の方に参加していただき、市民祭りでご披露しました。6月28日にはセーリング江の島会場に聖火がやっています。江の島大橋を踊って、聖火を迎えようという企画もあります。64年のオリンピックのスローガンが、「世界を感動の一つにまとめ上げよう」それに対して、現在、世界を繋げているのは、新型コロナウイルスの恐怖といわれます。オリンピックが開催できることを祈っております。私は湘南台に住んで40年が経ちます。今度こそ、湘南台駅を生まれ変わらせようと地域の仲間と一緒にプロジェクトを組んで、2月23日に第一回目のコンサートを開催しました。コロナウィルス騒ぎの中、400人の方がお集まりくださいました。アートと音楽をテーマに駅を変えていこうというプロジェクトです。湘南台駅、大変大きいのになぜ変えられないかというと、

あそこは道路仕様で、物を売ってはいけないし、使用には警察の許可が必要です。これまで小さなイベントはあったのですが、今回、地元のアーティストや音楽家がライブを開き、迫力のあるライブになりました。この活動はまだ始まったばかりです。パンフレットをお持ちしましたので、ご覧ください。ご協力お願い致します。



《卓話》

『イニシエーションスピーチ』

株式会社 新堀ギターアカデミー
常務取締役 出版局編集長
新堀 きよみ 会員



藤沢ロータリークラブへの私の入会を認めていただき感謝申し上げます。そして、本日は、イニシエーションスピーチの場を頂き大変光栄に存じます。

先祖のお話から

なぜシンボリではなくニイボリなのか…

看板でもお馴染みの新堀ギターですが、シンボリギ

ターだと思われている方が多いのではないのでしょうか？ 私もこれを疑問に思い、祖父や父から聞いた話です。いわば新堀家の言い伝えのような話になります…。

新堀の先祖(おそらく曾祖父)は、栃木県(日光)で徳川家に仕え、蔵をいくつももっているような、裕福な家だったそうです。ところが、この蔵に何度も窃盗団に入られるようになってしまいます。先祖と泥棒の攻防戦が続いたのですが、「これ以上、泥棒に入られたら、家がつぶれてしまう！」と、先祖はその土地から夜逃げしたとのこと。それも7隻の船で、たどり着いたところが東京の下町であったとか(これは妙な話で、栃木から東京への移動は陸路だと思うのですが…)。その時に、窃盗団にばれないように、シンボリからニイボリに読み方を変えたとのこと。



尚、写真後ろの建物は新堀辨造の母屋(東京の馬橋=現在の杉並区阿佐ヶ谷、この地が後に新堀ギター音楽院創立の地となります)で、壁面ガラス張り、大黒柱を倒せばすぐ家が壊せる、そして釘を使っていない建物とのこと、この家を解体するときは、各地から大工の棟梁たちが見学に来たそうです。



さて、最初の写真は 2007 年、新堀ギター音楽院創立 50 周年として、新堀ギターフィルハーモニーオーケストラが、ウィーン楽友協会(ムジークフェライン)黄金ホールで演奏を行ない、スタンディングオベーション(聴衆総立ち拍手)を頂いているシーンです。

本日は、日本で生まれたギターオーケストラが、ここまでたどり着いた歴史をご案内させて頂きたい思います。

次の写真は曾祖父・新堀辨造(べんぞう)を囲んでの新堀家の集合写真です。新堀辨造は有名な宮大工の棟梁であったと聞いています。

代表作には、日光国立公園(二荒山神社の建造物)の神橋(再建)、靖国神社の鉄の大鳥居、24 時間ガスが使えるようにしたガスタンク、看守が中央ですべての牢獄を見渡せる名古屋の刑務所など、新しいアイデア・技術によるものが多く、時には表彰され、時には「危険な物を造ろうとしている！」と投獄されたりもするという波乱万丈な人生であったようです。

私は、両親が新堀ギター音楽院を開校してから 2 年後に誕生しました。両親は多忙であり、初孫であったこともあり、特に幼い頃は両家の祖父母に育てられたと言えます。

母方の祖母(旧姓 斎藤フミ)は、新潟(中条、曹洞宗の太総寺)お寺のお嬢さんであり、新発田(シバタ)高校の歌姫とも言われていたとか…。卒業後は上京し、海軍省英文タイピストであったそうです。

祖父(巖掬男=清水家からの養子)も新潟県出身、青山学院卒でマンドリンと写真(カメラ)が趣味で、東京計器に勤めていたとか…何度か職を変え、晩年は習字の先生をしていました。とてもおしゃれな方でした。巖家は、戦争前までは「ねえや」を二人雇っている優雅な暮らしぶりであったようです。

父方の祖父(新堀三郎)は、通信省(現在の郵政省)に務め、給仕から郵便局長にまでなった努力の人。小樽の郵便局の時代、上京する度に私を北海道まで連れて行ってしまい、長期間両親の元に返さない事もあったとか。

北海道での私の定番の服装は、ジャンパーにズボン・長靴で、近所の元気な男の子たちと自然の中で遊び、時には登別のクマ牧場に連れて行ってもらったり、軍艦に乗ったり(三郎が元・海軍であったからか…)の日々。

その結果、東京に戻った時に「ママ、猫がいたよ！」と、自分と同じくらい大きさのドラ猫の首根っこをつかんで引き摺りながら持って来たとか…。そのような腕っぷしの強い(でも病気にはなりがち)子供であったようです。そして正義の味方に憧れて…幼少時代、

生傷が絶えなかった覚えがあります。

祖母(宮川長子)はとても穏やかな人。宮様とも関係があるのでは？と言われていましたが、定かではありません。

新堀ギター音楽院の始まりと私

こちらの写真は、新堀ギター音楽院を開校した時の建物で、僅かバラックの4畳半。もともとは父の部屋でした。歴史のあるギターを中心に、音楽全般を楽しみ学ぶところとしたかったので、「新堀ギター音楽院」という名称を付けて、結婚(1957年6月)後すぐにスタートしました。



父と母とは、第五商業高校器楽部の部長と副部長のつながりでした。卒業後、母は大倉商事に就職(青山学院の英語教室には通っていました)。父は青山学院大学に進学。卒業後に高校教師をやりながらの教室開校で、ギター教室で生活ができるようになるかは、見えていなかったそうです。



私が2歳(1961年)くらいの時は、教室も大きくなり(とは言え、まだ自宅兼教室)カワイのオルガン教室と提携し、場所貸しをしていたことから、私が初めて習った楽器はオルガンでした。この頃は、幼児用のギターも高音・低音のギターもありませんでしたから…。

曾祖父がそうであったように、新堀家はものづくりの血筋であるようです。

父はギター合奏を発展させたく、音域を広げるために高音・低音用ギターの開発に取り組みました。自宅が合奏の練習場所であり教室でしたから、私がお風呂屋さん(当時、自宅は風呂なし)で口ずさんでいた歌も、当時の合奏団が練習していたバッハのガボット

だったそうです。



幼い頃から、楽器には興味が有り、オルガンからはじまりピアノ、ハーモニカ(父が名人!)、鍵盤ハーモニカ、アコーディオン、フルート、ウクレレ、他、様々な楽器を経験させてもらいました。しかし将来、音楽の道やギタリストになることは考えていませんでした。

部活動も、中学で軟式テニス、高校でバスケットと演劇など。

新堀ギターの合奏は、最初の頃はプライムギター(町の楽器店にある普通のギター)ばかりの地味なもので、私は興味をもてなかったのですが、楽器の開発、人材の育成とともにそのサウンドも楽しくなっていき…。100名以上の編成のギター合奏の時代を迎えていきます。



徐々に注目を集め始めたギター合奏が、日本のクラシックギター専門家たちより「ギター合奏は邪道だ!」と批判され、父たちは、その真価を問う為に1974年、音楽の本場、ロンドンへ(40日間のツアー)!父が指揮、母がリーダーを務める女性合奏団「ザ・ドリマーズ」が演奏。サンデータイムズ紙やBBCなどが取り上げてくださり、「日本人の発明!ギターオーケストラがロンドンで成功!」と報じられました。ここからギターオーケストラという言葉が新堀ギターで使用するようになります。

ギターアンサンブルの楽しさを知って

私が小学生の時、ギター教室で習うように言われましたが、すぐに行かなくなる事の繰り返し。しかし、両親の英国公演で刺激を受けた妹が、ギターをまじめ

に習うようになり、姉としての危機感とともに重奏がしたく、高校時代にはようやく教室に通うようになりました。

音楽院は発展していましたが、家庭は良くない方向に…。そんな時期、各教室から集められた高校生のみギターアンサンブルができ、私は、それにはまってしまう。

1977年、新堀ギター音楽院20周年、「300名ギターオーケストラ・1万5千人集い」武道館公演を実現。私は生徒の大合奏(先生パート)で出演。この後、両親が離婚！それも関係してか、大学進学を変更し、父の学校・日本ギター音楽学校(東京都公認校)へ進むことにしました。



私が、日本ギター音楽学校に在学中(3年生)であった1980年、当時大活躍(年間ステージ160本程度)であったNE(東京新堀ギターアンサンブル)、全16名の内、スターメンバー6名が海外公演を前に独立宣言！他のメンバーもそれに合わせ辞めたいと申し出る人が多数で、残るメンバーはわずか5名という事態になりました。相談の上、辞めるメンバーはすぐに外し、日本ギター音楽学校の学生達などから教授推薦により新メンバー11名が選出され、なんと4か月後には海外公演という事になりました。なんと、このメンバーに私も選んで頂けたのです(新しい女性メンバーは私一人)。すべてが信じられない出来事でした。

新NEの東南アジア公演は大成功しこの後、講習会も定期的にかかれるようになり、台湾とシンガポールに新堀式のギター合奏が普及しました。卒業後、新堀ギター音楽院のギター教師とNEメンバーとして就任。

やがてNE(エヌ企画=新堀の企画セクション所属)の年間ステージ数は260本となり、1年の殆どがツアーで、教室活動との両立が困難になり、ステージがない時は、ギター専門誌の編集(ギターミュージック誌)のお手伝いをするようになりました。この事が、後に「月刊ハーモニー」誌の編集者に抜擢されること

になります。



演奏の日々

NEでの演奏は主にスクールコンサート(小学校～高校の音楽鑑賞教室)で、生徒たちを飽きさせないために早着替えがあり、曲目は、クラシック・日本の曲・チロルの音楽やポピュラーなど多彩に演奏しました。



今まで生徒たちが騒ぎ、音楽鑑賞教室の授業がなりたないときれていた学校も「新堀ギターの演奏ならば、鑑賞教室ができる！」という先生方のロコミもあり、NEのステージは日本全国で行われるようになり、午前2本と午後1本がスクールコンサート、夜に一般公演と多い日は、1日に4ステージを行なっていました。大編成での海外公演も行なわれるようになりました。

1992年 新堀ギターオーケストラ大編成(総勢80名)による中国公演(北京・南京)。日中国交正常化20周年記念として招聘されました。



私もメンバーである新堀ギター女性四重奏団(女四=現在のドリマーズⅢ世)はこの時、江蘇省TVの芸術祭(アジア各国のアーティストが出演)、生演奏を3

万6千人、放送を通して4億人の方達に観て頂きました。また中国の民族楽器の奏者の方達と女四は日本ツアーも共に行ないました。

1996年は、更に新堀ギターオーケストラ大編成(114名 総勢150名)でオーストラリア公演=シドニーのオペラハウスとメルボルンのアーツセンターで行ないました。



この他にも海外からオファーを頂き、数々の海外公演を行なって来ています。ハワイ公演は3回(内1回は世界平和宣言大会)、ドイツ、ポーランド、フランス、スペインも。学生による親善公演も多数あります。

そして… 一般大衆に音楽を広めたヨハン・シュトラウスと、ウィーン楽友協会(ミュージック・フェライン)。私たち新堀ギターのモットーも「心の糧になるよい音楽を全ての人々へ広めましょう」で、いつかこのホールでと思い、創立50周年(2007年)でその夢が実現し、130名編成のギターオーケストラで演奏をし、スタンディングオベーションを頂くことができました。毎年、NHKで放送されている、ウィーンフィルのニューイヤーコンサートが行われているホール(黄金ホール)です。



ここで、日本の曲、オリジナル、クラシックと様々な曲を演奏しましたが、その中より、本日は、ウィーンフィルのニューイヤーコンサートでも毎回演奏されている「ラデッキー行進曲」をご覧いただこうと思います。

新型コロナウイルス感染拡大など不安な日が続いておりますが、この映像で、少しでも元気になって頂

けたら幸いです。

私達はこれからもギターオーケストラを通して、地球一家、世界の平和づくりに寄与できましたら嬉しいです。よろしければ、どうぞ皆様も、ギターオーケストラにご参加ください。またこれらの活動をご支援いただけましたら幸いです。

本日は、ご清聴ありがとうございました。



相模原 RC 野口恭夫様いつもありがとうございます。

本日のお料理



エントランスホールのお花